

景況実感調査(12月) 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① メーカー母材のup待ちは変わらず、タイト感が出ている。価格は11月比、ジワジワと上げ基調が続いている。建材用途の加工は好調が続いている状況。
- ② 20日以降はカレンダーにより動きも止まり、売上減となった。年初の得意先、仕入れ先の反応は、消費税の影響を超えて拡大傾向を予測する見方が大方を占め、希望が持てる一年になりそうだ。メーカーの姿勢も強く、値戻しを着実に進めることに注力したい。
- ③ メーカーの納期遅延等で市中在庫が減少して、歯抜けサイズも出ていることから、価格より物の確保が優先され、仲間取引においては積み残し分の価格転嫁が進んだ。ただし、動きの中には仮需もあることから、今後の推移を見ていきたい。
- ④ 酸洗材の引合いは依然好調。冷延材については引合いが鈍く、厳しい状況が続いている。
- ⑤ 稼働日数が20日と、前月比で少ない分売上が減少。状況としては、まずまずで推移していくのではないかと。
- ⑥ 日々の加工量は相当あるが、12月度は稼働日数が少なく、月次的には数字は低い。

中板

- ① メーカーの姿勢は強固で、さらなる価格転嫁を加速したいところだが、値上げの勢いが無い。市中在庫のタイト感もあり、年明けの市況上伸に期待する。

厚板

- ① 基調は前月と変わらない。旺盛な建築需要により、12月の建材シャア各社はピークを迎えている。橋梁分野においても、全体として前月比生産量が30%増の見込みである。年度内は同様な水準が見込まれる。店売り向け材料供給が非常にタイトであることから、直需向けの市況も年明けからさらに強基調で推移するものと思われる。

—舟安开金岡

- ① 現場は多く出てきているが、契約物件が残っているため価格が転嫁できない。職人不足の解消策として、海外からの応援をとという現場が出てきている。
- ② 前月比1日営業日数が少ないにもかかわらず、各指標は横這いであった。実質、前月よりも好転である。28日までデリバリーは煩雑を極め、来年1月も引き続きこの調子で、幸先のより1年のスタートが切れそうだ。

II 形鋼

- ① メーカーの販価に関しては、値上げと据え置きとなっているが、強気の姿勢は崩れていないために、今後も上昇傾向と予想される。流通の荷動きは悪くないので、採算の取れるラインまでの販価アップが急がれる。
- ② 例年の年明けよりは忙しそうだが、これが続くかは分からない。人手不足や増税の影響等の不安要素もある。

異形棒鋼

- ① 12月はメーカーのオフアーム止めもあって、販売量は年末にもかかわらず好調。市況も上昇した。メーカー価格の急上昇もあり、もう一段の市況上昇が必要である。

平鋼

- ① メーカーは今年(1月)も値上げし、昨年9月から5ヵ月連続の値上げとなった。値上げを受け価格転嫁を行い、下値は切り上がってきたが、全体のペースは落ちてきている。建築中心に需要は回復し、先々への期待感はあるが、荷動きは横這いで推移している。
- ② 営業日数が少ない分、売上数量は減少。日割りの出荷量は落ちていない。

鋼管

- ① 低調だった配管類も徐々に出荷増に転じており。価格転嫁も進むと思われる。
- ② 土木分野は好調である、市中在庫も相対的に減少。人手不足、トラック不足はさらに深刻化している。

構造用鋼

- ① 荷動きは低調が続いている。引合いは多少出てきてはいるが、価格は厳しく、利益確保が難しい状況。
- ② 需要動向については、自動車関連部品は引き続き堅調な動きが続いている。一方、建設機械関連は、中小型機は依然好調だが、鉱山開発用の大型機が低迷したまま推移している。また、海外向けは中国を中心にアジア向けの減少が続いている。店売りは横這いで推移している。市況については、再販価格の値上げを進めているが、荷動きが低調なこともあり、市況上伸にはまだしばらく時間がかかると思われる。

その他

<曲げ加工>

- ① 先々月あたりから、まとまった物件の件数が増えてきたように思う。しかし、12月は単発に終わった。また、暮れに近い後片付けのような細かい仕事が多く、たいした加工量にならなかった。仕事そのものは今までより動き出した感がある。昨年前半のような低迷がないことを望む。

<スクラップ>

- ① スクラップ発生量は増加したが、12月中旬より輸出の減少とメーカーの荷止めで、荷余り感がある。年明けも引き続き荷止めが続くそうなので、下げムードにある。

<金属表面処理加工>

- ① 12月は紐付き、物件物ともに計画通り。スポットは予想通り。引合い、成約が活発となり、12月後半から緊急対応を含め高操業となる。年明け以降も同様に推移すると思われる。また、物件物の輸送について、車両の確保が難しいことから、前広に打ち合わせをして客先への安定供給を目指す。併せて、塗料等の購入品の値上げが確実となることから加工費の値上げを実施する。